

(2019年度CS研合宿研修会パラレルセッション)

【テーマ】大学IRとBIツール

【主催】教育システム分科会

活動報告

日時：2019年8月28日（水）9:00 ～ 15:30

場所：Royal Hotel 長野「斑尾」

出席者：30名

## 1. 研究内容

ここ数年、IR(Institutional Research)の重要性が叫ばれていますが、その理解度には大きなバラツキがあるのが現状です。

今回、教育システム分科会では、国内の大学におけるIRの現状や実際の取り組み事例を学ぶとともに、データ分析時に用いられるツールとして使いやすいと言われているTableauを実際に操作し、IR全般に関する理解を深めました。

## 2. スケジュール

【午前の部】9:00 – 12:00

・全体会（事務連絡等）

・ご講演

「第3期認証評価におけるIRの役割と実際」

山形大学 学術研究院(学士課程基盤教育機構)

准教授 白石 哲也 氏

・IRの現状(30)

・アイスブレイク(15)

・IR事例紹介(45)

・清泉女子大学

・全国IR調査から見たIRの現状

・休憩(10)

・グループワーク

・説明(10)

・ワーク(40)

・まとめの発表(20)

・講評(10)

【午後の部】13:00 – 15:30

・ハンズオン

「授業評価アンケートを使ったTableau活用体験」

概要：

BIツールであるTableauの実践的なテクニックをご紹介します。

前半は、授業評価アンケートと学生データを使って、グラフの作り方を体験。後半は、授業評価アンケートと教務データを繋ぐことで分析観点が増えるメリットがある事と、その際の注意点についてご紹介。

実施内容：

・前半：グラフの作り方

・休憩

・後半：データを繋ぐメリットと注意点

・まとめ

講師：

富士通株式会社

文教・地域ソリューション事業本部

第一ソリューション事業部

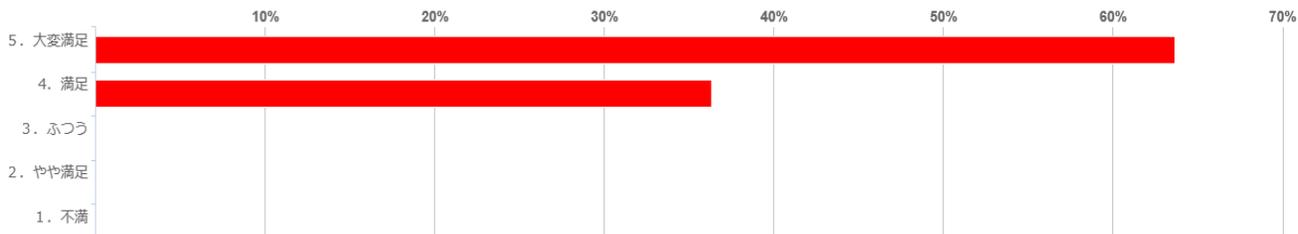
第一ソリューション部 高木 康将 氏

・本日のまとめ（5分）



### 3. アンケート結果【回答数11】

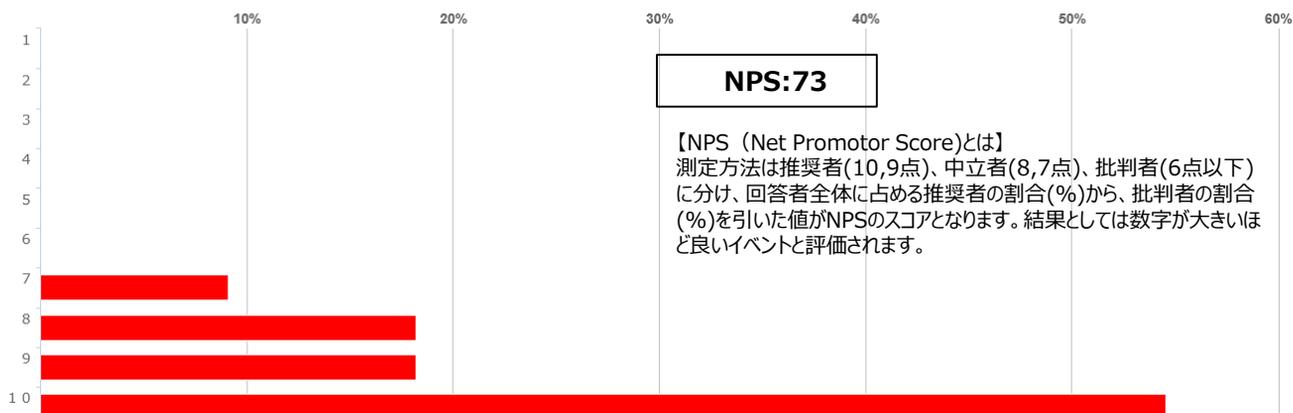
■ 本日の分科会「プログラム内容」についての満足度をお選びください(5点満点)



■ Q7の理由

✓ 無し

■ 今回の合宿研修会を、どのくらい他の人に推奨したいとおもいますか？ 0(おすすめしない) ~10(おすすめしたい)



■ NPSの点を付けた理由を具体的にお書きください

- ✓ IRと質保証の関連について理解できた。
- ✓ 内容とても充実している。
- ✓ 大学にとって必要となるIRについて深く学べたので、また、BIツールを体験できて具体的なイメージができました。
- ✓ IRに関してまだ知られていないので。
- ✓ IRの概要と活用方法が良く分かった。Tableauの使い方も実際に手を動かしたことで判り易く学ぶことができた。
- ✓ 質問する機会があるので、わからない所を即解決できる。
- ✓ Tableauの操作を丁寧に説明いただきありがとうございました。とても良いツールですが使いこなすには難しいツールだと思いました。

■ 本日の分科会を実施して、開催テーマに対して得られた研究成果(疑問や課題等含めて)をお書きください

- ✓ 大学・学院全体というのはむずかしいが、自身の業務範囲について、可視化していきたい。
- ✓ IRを実施するための体制づくりと学内のコンセンサスを作る難しさ。
- ✓ IR業務に関する知識が深まりました。
- ✓ IR改善の難しさが理解できました。課題が明確になりました。

■ 次回以降に取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください

- ✓ IRの事例等はまた取り上げてほしい。
- ✓ 学内のニーズをどのように収集するか。
- ✓ 入試や広報に関するもの。

#### 4. 参加校 [7校10名] ・参加企業[5社20名] ・参加総数[30名]

青山学院大学[2]  
鎌倉女子大学[2]  
共立女子大学[1]  
清泉女子大学[2]  
東洋学園大学[1]  
明治大学[1]  
山形大学[1]

(株) インフィニテック[1]  
富士電機ITソリューション (株) [1]  
富士通エフ・オー・エム (株) [1]  
富士通関西中部ネットテック(株)[1]  
富士通 (株) [16]

#### 5. 所感

米国のIRの紹介や事例を参考に、IRの関心が高まり、日本国内でも2011年頃より国立大学や大規模私立大学を中心に事例がスタートした。最近では、中・小規模大学の事例も増加しつつある。  
また、大学改革・支援学位授与機構（2017）『教育の内部質保証に関するガイドライン』では、大学における「内部質保証」の重要性が明確に記載され、内部質保証システムにおけるIRの役割は、目的を持って意識して分析結果を提示していくことが重要であると認識した。

そのような中で、白石先生が携わられた清泉女子大学におけるIRの立ち上げから現在までの4フェーズに渡るご紹介は、大変興味深いものであった。まず、第一フェーズでは、IRに対する理解徹底のため、学内で行われている定型アンケートなどを可視化し、集中的に提供した。第2フェーズでは、IRを行うための環境整備（BIやDBなどの環境構築）をした。第3フェーズでは、重要性の認知のため、現状、大学で必要な事項に対してデータを徹底的に示した。現在、第4フェーズに移り、改善にIRを意識してもらう段階に入っている。

またその他にも、国内の大学におけるIR組織の人的資源配分及び能力を明らかにするための「全国IR調査の結果報告（ヒアリング調査）」は参考になった。  
「まずは、大学が置かれた状況を正確に理解し、必要なデータを蓄積・活用していくことが大切。各大学の特性に合わせたIRを展開していくことが大切」と、白石先生は指摘した。

後半は、BIツールであるTableauの実践的なテクニックを富士通がご紹介した。参加者からは「BIツールを体験できて具体的なイメージができた。」という意見もあり、データを繋ぎ分析することや、どのような時に、どのようなグラフが適しているかなど試すことができた。

1日の研修をとおし、参加者はIRを改善に繋げるために、各自が自大学のIRの現状を再認識した。また、各自が今後どういったスキルを補っていく必要があるかを認識するよい機会となったと思う。

(事務局 富士通 文教ビジネス推進統括部 ビジネス企画部 池谷)